



ふるさとの歴史を見つめてきた山高神代桜

満開の桜木のなかでも、ひときわ異彩を放つ老木。実相寺（北杜市武川町）境内にある“山高神代桜”は、日本三大桜のひとつ、国指定の天然記念物である。樹齢2000年余り、古来からその名を知られ、日本

武尊（やまとたける）東征の折の手植えとも、また「妙法桜」と呼ばれ、日蓮聖人が衰えた樹勢の回復を祈ったとも伝えられる。古木の風格をたたえ、悠久の時の中、人々の営みを見つめてきた老桜は、今年も開花の時を迎えている。